

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.7〉

〈恩田④ 散策マップ〉

江戸時代の常盤湖築造でかんがい用水が整備され、荒れ地が田畑に生まれ変わった恩田地区。1970年代以降は田畑が住宅地へと様変わりした。市民のスポーツ拠点である恩田運動公園を発着点に、恩田の歴史と未来を感じられる場所を歩いてみた。



常盤湖の水路網、一部は現役

宇部市野球場「ユーピールスタジアム」前から、地区でも数少ない神社の一つ「恩田河内神社」(①)を目指して西へ向かう。坂を下り通称「産業道路」と合流する所、道の向こう側に鳥

運動公園から住宅街など巡る

居が見えてくる。お参りした後は、恩田町2丁目の住宅街の路地(②)を散策。明治時代に炭鉱主として財を成した家も多く、当時は「宇部の金持ち、恩田か嶋(島)か」という言葉もあった。歩いてみると、新旧の住宅が立ち並ぶ中に、石垣で囲われた広い敷地の古い邸宅もあった。

路地を抜けると、区内にほとんど見られなくなった田んぼ(③)にぶつかると、その脇には常盤湖のかんがい用水網の一部があり、水が豊かに流

れていた。築造から30年以上たつ水路が今も活用されていることが分かる。田のあぜにできた生活道を抜け、山口宇部空港を目指して市道を南東方向に向かう。国道190号を横断し、五十目山町から草江3丁目の住宅地を抜けて空港(④)に着。この途中でもかんがい用水路を何度も見掛け、常盤湖から伸びる水路網の広さを実感できた。

2017年9月に線画家・イラストレーターの郷さとこさんがデザインした駅舎アートが目立つJR草江駅(⑤)写真を左手に、市道を北上しゴールを目指す。

この市道は空港と恩田運動公園を結ぶ道でもある。将来、運動公園内でプロスポーツなどのイベントが開かれるときには、道沿いにキッチンカーや露店が並ぶのだろうか。そんな光景を思い浮かべながら歩いた。

恩田運動公園は25年度のリニューアルオープンに向け、先日、整備の基本計画が示された。恩田、そして市のにぎわい創出の拠点になることを期待したい。

次回は小野地区。13日スタート。